

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
ミクロ経済学				齋藤 達弘	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	3 年次	講義	無	無
授業の概要 (Course Description)					
<p>ミクロ経済学では、家計や企業の意思決定、市場の機能や失敗、政府の役割や失敗などを学ぶ。具体的には「人々の幸福を増大させるであろう交換の利益を最大限に実現させるために、市場における自発的な取引と政府による規制・介入との適切な役割分担を考える」ことである。ミクロ経済学は、現実の課題に対処するとき、その考え方を応用することに価値がある。</p> <p>授業はテキストの章立てにしたがって進める。授業全体を通してグラフを多用する。また、いくつかの章では、一歩進んだ学びとしてモデル分析を補足する。モデル分析では基礎的な微分と最適化の知識が必要になるため、まずは必要最低限を学習する。数式表現に慣れ、モデルを理解することが望ましいが、モデル分析を理解できないからといって単位修得できないということではない。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>この授業の到達目標は、ミクロ経済学の考え方を理解し、現実の課題に対処するとき、それを応用できるようになることである。また、一歩進んだ到達目標として、ミクロ経済学のモデル分析に慣れることである。数学が苦手だというみなさんにこそ、高校で学んだ数学をムダにしないために、そして何よりも経済学ではどのように数学を用いるのかを知るために、モデル分析に取り組んでもらいたい。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンスとミクロ経済学の全体像				
第 2 回	講義ノート 数学準備 (微分と最適化)				
第 3 回	テキスト 第1章 ミクロ経済学とは？				
第 4 回	テキスト 第2章 個人の選択を考える (モデル分析)				
第 5 回	テキスト 第3章 需要曲線と供給曲線 (モデル分析)				
第 6 回	テキスト 第4章 市場均衡と効率性 (モデル分析)				
第 7 回	前半のまとめ				
第 8 回	中間試験と解説				
第 9 回	テキスト 第5章 完全競争市場への政府介入と死荷重の発生 (モデル分析)				
第 10 回	テキスト 第6章 市場の失敗と政府の役割 + 第7章 独占				
第 11 回	テキスト 第7章 独占 (モデル分析)				
第 12 回	テキスト 第8章 外部性				
第 13 回	テキスト 第9章 公共財				
第 14 回	テキスト 第10章 情報の非対称				
第 15 回	後半のまとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>授業はテキストの章立てにしたがって進める予定であるから、次回の内容 (テキストと講義ノート) を予習しておくこと。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)		
評価方法	(割合)	評価基準
中間試験 期末試験	(50%) (50%)	秀：キーワードや考え方、モデル分析を特筆すべき水準で理解している。 優：キーワードや考え方、モデル分析を適切な水準で理解している。 良：キーワードや考え方をおおよその水準で理解している。 可：キーワードや考え方を最低限の水準で理解している。 不可：キーワードや考え方の理解が最低限の水準に達していない。
テキスト (Textbook)		安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)		尾山大輔・安田洋祐（編著）『改訂版 経済学で出る数学』日本評論社、2013年。 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。
備考 (Other Information)		授業計画に則して進める予定であるが、状況に応じて授業計画を変更することがある。また、受講者数により評価方法を変更することがある。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)		メール連絡。